

# 深川第八中学校の職場体験



森林調査の方法を学んでいます

関東森林管理局東京事務所では、今年度も江東区立深川第八中学校の職場体験を受け入れました。2年生2名を対象に令和5年12月12日～13日に、1日目は江東区にある東京事務所、2日目は江東区から一番近い国有林がある八王子市の高尾森林ふれあい推進センターで実施しました。

1日目の午前中は、森林管理局・署の仕事や日本の森林・林業、生徒の地元である江東区と木材の深く長い歴史、森林調査の方法等について説明しました。午後からは近くの都立木場公園の樹木を森林に見立てて、調査区域の面積を測る測量と、樹木の材積を算出する測樹を体験させました。

初めてながら2人とも、樹木の直径を測る輪尺や高さを測る樹高測定器、コンパス測量器の扱い方をマスターし、気温が下がる寒い中、夢中になって作業に取り組みました。その後事務室内に戻り、自分たちが測った成果をパソコンに入力する作業に挑戦しました。そして成果が正確であったことを確認し、1日目を終えました。聞き慣れない言葉や機器の使い方を覚えることは大変だったと思います。



測量機器の使い方を真剣に聞いています



2人1組で声を掛け合いながら測量作業



輪尺を使って直径を計測

職場体験2日目、早起きして担当の教員とともに電車に乗って八王子市までやってきました。天気が心配されましたが、朝から快晴で絶好の野外体験日和となりました。

挨拶のあと間伐を体験する国有林まで移動し、高尾森林ふれあい推進センターの職員から間伐の意味や作業手順を学んだ後、足場が少し悪い中、慣れないのこぎりで試行錯誤しながらヒノキを伐り倒しました。その後の森林の中を丸太を担いで林道まで運び出す作業は大変だったようです。

間伐体験を終えた後、歩道の点検やごみ拾いをしながら、高尾山山頂まで移動しました。途中、数年前の台風で崩れた沢を復旧した治山施設を見学し、治山事業の大切さについても学びました。

多くの登山者でにぎわう山頂で昼食を食べた後、豊かな植生を持つ高尾山の自然や、山には林班や小班という住所のようなものがあること、国有林と民有林の境を示す境界標について学びながら、「いろはの森」をぬけ日影沢キャンプ場へ移動しました。前日に降った雨のため滑りやすく、転びそうになりながらも無事に下山しました。日影沢キャンプ場では、自分たちが間伐したヒノキ材で丸太切りを経験しました。今回、職場体験を希望しながらも欠席した生徒のために、お土産用として輪切りを張り切ってたくさん切ったり、教員も授業に使いたいと大きめに切っていました。



想像以上に重い丸太の運び出し



治山事業の大切さを学びました

生徒から「普段とは違う視点で森林を見ることができ、視野が広がった」「森林の安全を守る活動や、森林の面白さを伝える活動に感銘を受けた」との感想がありました。

これから自らの将来の職業選択を考える時に、今回の体験を少しでも思い出してくれればよいと思います。